

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25	入居時の情報収集が弱く、生活歴などのこれまでの暮らしに関する情報が少ない。	アセスメント様式を変更し、入居者全員の再アセスメントを早急に実施する。	まず個々の職員が持っている情報を共有。本人・面会時の家族のヒヤリングを職員全員の協力で実施、再アセスメントを完成させ、定期的な情報の更新につなげる。	3ヶ月
2	28	介護計画書の短期目標が具体性に欠ける。定期的に見直しはしているが、チームで作るという視点が弱い。また介護記録が簡素化されすぎていて、一人一人の姿が見えない。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について関係者の共有認識を高め、現状に即した介護計画を作成する。また日々の様子がわかる個別記録に努め、職員間で情報を共有する。	介護計画については、計画作成担当者任せにせず、カンファレンスで関係職員が協議、現状の把握と見直しの必要性を検討する。また個別記録については、全職員に日中の様子がわかるような三行記述をしてもらう。	6ヶ月
3	15	施設内研修は年間計画に沿って実施できているが、部外研修への参加は、一部職員に限られている。	施設内研修のテーマに、権利擁護制度・接遇マナーを加え、今年度は虐待防止の研修にも重点を置きたい。外部研修・資格取得の研修にもサポートを強化する。	北九州市福祉研修所等の主催する各種研修については、職員に情報を公開するだけでなく、コミュニケーションを取りながら参加を後押ししていく。	6ヶ月
4	2	地域とのつき合いは、運営推進会議・ふれあい市場への参加・ボランティアとの交流等に限られている。	家族・地域住民・ボランティア参加型の年間行事を実現する。またグループホームからの情報発信手段としての「事業所通信」の復活を実現する。	昨年夏の「納涼祭」を参考に、冬の「餅つき」などの企画を立てる。年4回ほどの「事業所通信」の発行に向けて、企画委員会を立ち上げ、まず他の事業所の情報収集から始め、課題を検討する。	4ヶ月
5	37	災害対策はマニュアルを整備、年2回の避難訓練も実施されているが、地域との協力体制が出来ていない。	避難訓練は回数を増やして実施しながら、地域との連携を深めていく。	運営推進会議時に避難訓練を実施。通報・消火・誘導訓練を実際に見ていただき、課題を検証することで、地域との連携体制づくりの糸口とする。	4ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。